



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

21

どきどき
たいむとらべらー

お姫様の嫁入り道具

「貝」といわれると、皆さんほとんどなものを想像しますか？

ひとくちに「貝」と言っても世界には十一万種もあるのだそうですが、「貝」といわれて私たちが思い浮かべるのは、ほたて・しじみ・あさり・はまぐりなどなど、焼いたり煮たりでおいしく食べているものではないでしょうか。

さて、おいしく「貝」をいただいた後の残った貝殻、ただただ捨てられるだけでなく、意外な使われ方をしております。

江戸時代の公家や武家のお姫様の嫁入り道具の一つに「貝桶かいづく」というものがあり、この「貝桶」の中には、360個のはまぐりが入っています。

ます。なぜはまぐりかと言うと、はまぐりは対となる貝殻としか組み合わせることができないので、一夫一婦の象徴として使われていました。

もちろん、お姫様の嫁入り道具ですから、炊事洗濯に使うような生活道具ではありません。

むかしむかし平安時代の頃、物合わせの一つとして貝殻の色合いの美しさや珍しさ、貝に添えた歌の優劣を競う「貝合わせ」という貴族の遊戯がありました。そのため、貝の内側に絵は必要ありませんでした。その後、この遊戯は、片側を「地貝ぢがい」もう片側を「出貝だいがい」と呼び、地貝を伏せて円状に並べ、入れ物から一枚の出貝を出して中央に伏せておき、地貝の模様や形が同じものを見定めて貝を合せ、最も多く取ったものが勝ち、というものに変化していきました。

そして江戸時代、貝の内側には花鳥風月・絵物語などの見事な装飾が施され、貝を入れる貝桶も立派なものが作られ、遊戯に使うものとしてだけでなく、調度品として、みごとお姫様の嫁入り道具となったわけです。



貝の内側に施された装飾

こみゆにTeaたいむ

30杯目

にのへの宝展を開催します

12月23日(水)から翌年1月5日(火)まで「にのへの宝展」を開催します。本市の宝を写真などで紹介しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

二戸市の宝探しは、平成4年から始まり、「自然」、「生活環境」、「歴史・文化」、「産業」、「名人」、「要望」と6つの分野で宝を探しました。この探した宝をマップにし、各地区に「宝の案内板」や「宝の説明板」などを設置して、市内外の方に地域の宝を紹介しています。

また、各地域でこの宝を活用してイベントを開催するなど、地域で宝を生かす取り組みが進められてきました。

現在は、旧浄法寺町も含めて新たな宝探しを進めており、これからも宝を生かして地域の活性化に向けた取り組みを進めていく予定です。

にのへの宝展で二戸の宝を再発見してみたいかでしょうか。

日程 12月23日(水)～1月5日(土)まで

場所 カシオペアメッセなにかーと3階 展示ルーム他



(写真左) 姉滝 (写真右) 男神・女神

【まちの名人…小笠原正さん】



小笠原正さん(84歳・金田一川)は、神棚に飾る御幣切りの名人で、以前からのものに「亀」や「招き猫」など独自の図案を加えて切っています。小笠原さんは「御幣切りは1枚の紙を切って作ります。指に力が入り、神経を集中するので頭の働きが良くなります。小学校高学年以上なら誰でもできますので、興味のある人はご連絡ください」と話します。また、小笠原さんは戦時中、ゼロ戦の整備をしていたそうで、懐かしい昔話なども話してくれます。まちの名人をご紹介します。自薦・他薦問いません。

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線654)まで